

1 教育長報告

(1)夏季休業中の教職員の服務等について

【報告】

○吉野教育長

8月8日からの夏季休業を控え、教職員の服務等の指導について報告するものである。詳細は教職員課長が報告する。

○教職員課長

7月8日の定例校長会において各学校長へ通知したものである。今年度の夏季休業は、2週間と短い期間であるが、公務外においても社会人として、また、教育公務員としての良識を持って行動すること、交通法規を遵守した自家用車又は自転車の慎重な運転等、職員への指導を各学校長に依頼した。

一方で、課業期間中は、今年度は通常業務に加えて感染症の感染拡大を防ぐため、様々な対応があったので、学校閉庁日等を活用しながら、可能な限り職員にリフレッシュしてもらいたい旨を併せて伝えたところである。

【質疑】

なし

2 令和3年度平塚市立中学校使用教科用図書採択について

○吉野教育長

令和3年度に平塚市立中学校の生徒が使用する教科用図書について採択するものである。詳細は教育指導課長が説明する。

○教育指導課長

令和3年度平塚市立中学校において使用する教科用図書について、種目ごとに協議の上、採択をしていただきたいと思います。

令和3年度平塚市立中学校において使用する教科用図書については、平塚市教科用図書採択検討委員会設置要綱に基づき、採択検討委員会を設置し、採択に関する必要な事項を教育委員会に報告することを目的に調査、研究及び協議をしてきた。

まず、第1回平塚市教科用図書採択検討委員会では、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」、「教科用図書採択の流れ」、「令和3年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針」等を確認した。第1回平塚市教科用図書採択検討委員会の後、設置要綱に基づき、今回採択する中学校用10教科16種目について、「調査委員会」を設置した。調査委員会については、平塚市、秦野市、伊勢原市の調査員、及び大磯町と二宮町の調査員、合計4人で調査活動を行った。調査の観点については、神奈川県教科用図書選定審議会の観点を参考にした。

第2回平塚市教科用図書採択検討委員会では、平塚市の調査員が、調査報告を行い、そ

の後、検討委員による質疑と協議を行った。その中で、本市の生徒の実態に合った教科書の在り方や、教師の指導に即した教科書の在り方について質問や意見、要望をいただくことができた。また、保護者代表の方にも出席、協議への参加をしていただいた。

本日の教育委員会においては、令和3年度中学校において使用する教科用図書を種目ごとに協議の上、採択していただくよう、よろしく願いたい。

○吉野教育長

ただいまの説明について、質問はあるか。

○水谷委員

確認事項であるが、教育指導課長からこれまでの経過の概略を紹介していただいた。公正な採択の確保という点で、今日まで対応がなされてきたかどうか、伺いたいと思う。

また、採択検討委員会において公正に審議が進められたと受け止めているが、事務局としては、どのように受け止めているか、確認したい。

○教育指導課長

文部科学省や神奈川県教育委員会からの指導もあり、各学校に対して、公正確保の通知を出している。また、学校において、教科書発行者による献本や自宅訪問等の不正行為がないように、十分注意するよう依頼してきた。その結果、学校等における不公正な動きは見られなかったと認識している。

採択検討委員会においては、採択検討委員の皆様にも、役割や立場を十分に理解いただき、誓約書に署名をいただいている。採択検討委員会当日は、静謐な環境確保ができたものと考えている。

また、採択検討委員会の中では、調査員の調査研究報告がなされた。報告は公正な内容であり、これに基づき、協議を行うことができ、会議は公正に進められたと認識している。

○吉野教育長

他に質問はあるか。

(質問等の意見なし)

○吉野教育長

特に質問がないようなので、令和3年度平塚市立中学校において使用する教科用図書について、各種目の採択に移る。

【国語】

○吉野教育長

それでは、国語から始める。いかがか。

○梶原委員

私は光村図書がよいと思う。いろいろな教科書を確認したが、一番読みたいと思える教科書であった。生徒も同じように、主体的に読むことができ、学んでいけると考えられる。

○目黒委員

主体的に学んでいけることは何より大切なことだと思う。どの発行者も主体的に学習を進められるような工夫がされていて、問いを持ちながら対話的に学びを深めていけるような構成になっていると思った。

三省堂の「学びの道しるべ」や教育出版の「学びナビ」も魅力的であるが、その中でも、東京書籍の「言葉の力」と光村図書の「学習の窓」は、どちらもこれらのコーナーで学習のポイントを確認して、主体的に学んでいくという学習スタイルを確立していくことができ、その上で国語の力をしっかりと付けていけるような作りになっていると思った。

○林委員

どの発行者も主体的な学びという点を意識して作られているとは思いますが、私は、特に日々学生に教える立場でも、論理的な表現方法を身に付けることが大切であるという立場から、光村図書に魅力を感じる。

このことについては、どの発行者もよく工夫されているが、光村図書では、巻頭にある見開きの「思考の地図」に様々な思考法がまとめられていて、「思考のレッスン」、「情報整理のレッスン」では、思考法や情報整理の方法が丁寧に説明され、「情報社会を生きる」では、実践を通して学べるようになっている。さらに、「書く教材」等で根拠に基づき論理的に伝えられるように学ぶこともできる。

子どもたちが論理的な表現方法を身に付けるには、私は光村図書がよいと思う。

○水谷委員

国語に限らず、読書指導の充実が重要であると思っている。「読書へのいざない」と言うか、生徒が本を読みたいという気持ちを育めるような教科書を採択したいと考えている。

そういう視点で見ると、私は、光村図書と東京書籍がよいと思う。東京書籍は、「読書への招待」という単元がある。読み物を読んだ後、関連したテーマの本が多数紹介されている。また、光村図書では、本の一部が紹介されていた。一部を読むことで間違いなく、続きを読みたくなるのではないかと思った。

○林委員

もう一点、私から指摘してもよいか。光村図書の古典は、非常に読みごたえがある。また、初めて本格的に古典を学ぶ1年生において、各者身近な昔話や読み物で導入している中、光村図書は、いろは歌の音読から入っているところも魅力であった。

○目黒委員

私も同じように感じた。光村図書は、全ての学年で古典単元の初めは「音読を楽しもう」を設定している。音読で古文の言葉の響きや調子に触れるのは、とても親しみやすくてよ

いと考える。

○吉野教育長

古典が苦手にならずに楽しめると思う。私も光村図書の古典のよさの一つとして、1年生のうちから、一部に現代語訳を古文の横に示しているというところがあるかと思う。

他の発行者は、1年生において、ほとんどが上段に古文、下段に現代語訳といった構成になっているが、その横に現代語訳があると、この古語がこういう意味であるということを理解していく上でよいと思った。私は古典を苦手としていたので、経験上で横に現代語訳があるのはよいと感じた。

○吉野教育長

それでは、国語については、光村図書という声が多いようであるが、光村図書ということではどうか。

【結果】

全員異議なく「光村図書出版」が採択された。

【書写】

○吉野教育長

続いて、書写に移る。いかがか。

○梶原委員

私は昔、書道を習っていたが、残念ながら毛筆やペン字は下手である。どの発行者も毛筆で学んだことを硬筆で生かすという学習の流れになっていて、どの発行者もよいと思った。

○林委員

どの発行者も毛筆から硬筆への流れがスムーズにつながるように工夫されていたと感じる。特に、東京書籍では課題に気づき、「書写のかぎ」でポイントを理解し、毛筆でそのポイントを確認して、硬筆に生かしていく。そして、その力が生活に生きて働くことを目指した作りになっている。

○水谷委員

林委員が言われたように、書写は生活の中で生かされるということ、つまり、大人になってからも文字を正しく整えて書けるということが一番大切だと思う。私もかつて書写を学んだはずであるが、自分で書いたメモを後で読み返すと、何が書いてあるか判らずに困ることがあるので、大変重要であると思う。

文字を正しく整えて書くために、各発行者はそれぞれしっかりと工夫されているが、その中でも、光るのが光村図書である。別冊の「書写ブック」があり、繰り返し学ぶことで確かな「書く力」を育むことができると感じた。

○林委員

生活の中で生かされる「書く力」を育むための工夫として、東京書籍は「生活に広げよう」という単元が設定されている。その中でも「職場訪問をしよう」というところでは、依頼、訪問、お礼状の作成までというストーリーがあり、とてもよいと思った。

○吉野教育長

どの発行者も日常生活や社会に出てからも活用できるよう、よく工夫をされている。

三省堂や光村図書では、原寸大のはがきサイズで練習ができたたり、教育出版では、分かりやすいノートの書き方が載っていたりした。

その中でも、東京書籍の巻末資料は、手紙やはがき、荷物の送り状だけでなく、新聞、リーフレット、ポスター、レポート等の種類が多く、大変素晴らしいと思う。

○目黒委員

自分が小学校に働いていた経験で、小学校の学びを生かすという点においては、どの発行者もよく工夫をされていると感じた。その中でも東京書籍は、1年生の1単元目が「小学校の学習を振り返ろう」となっていて、小学校での学びを中学校での学びへとスムーズにつなげている。自分の書き方を見直すという視点もよいと思った。

○吉野教育長

東京書籍という声が多いようであるが、梶原委員、水谷委員いかがか。

○梶原委員

よいと思う。

○水谷委員

皆さんの話を聞いて、東京書籍も生活の中で生きた書く力が付けられると思うので、東京書籍でよい。

○吉野教育長

それでは、書写については、東京書籍を採択するということでよいか。

【結果】

全員異議なく「東京書籍」が採択された。

【社会（地理的分野）】

○吉野教育長

続いて、社会科・地理的分野に移る。いかがか。

○目黒委員

私は、帝国書院の教科書がよいのではないかと思う。日本の各地方の学習の初めに、イ

ラスト地図が掲載されているのが特徴的であった。親しみやすい感じで、生徒がこれから学習する地域の特色を視覚的に捉えやすく、地理への興味・関心を喚起させながら主体的に学習に取り組めるよう工夫されていると思う。

また、「技能をみがく」というコーナーが随所に設けられているので、写真や地図、グラフの読み取り方等、地理的分野の学習を進める上で大切な技能を着実に習得できるのではないかと思った。

○水谷委員

教育出版、帝国書院、日本文教出版には、本文ページにヒントや問いかけを示すキャラクターが掲載されていて、生徒が興味・関心を高められるような工夫がされている。

一方で、東京書籍は、本文ページでキャラクター等の視覚情報を少なくし、生徒が学習に集中できるようなシンプルな紙面構成で学びやすいと思った。また、資料の掲載部分と本文部分が色分けされていて、全ての生徒が見やすいような配慮が感じられた。

見やすさや使いやすさという点で、私は、東京書籍もよいと思う。

○梶原委員

採択検討委員会において小学校の学習との接続について話題となったので、私は小学校とのつながりという視点で見た。

教育出版は、巻頭のページに小学校の学習を振り返るページが設けられ、東京書籍は、各章の導入部分で「小学校の社会で習ったことば」を掲載することで、小学校の学習を想起させる工夫が見られた。帝国書院、日本文教出版は、本文の下段に小学校との関連が示されており、小学校で学習した内容をその都度振り返ることができるように工夫されている。総合的に考えると、私は帝国書院か日本文教出版がよいと思う。

○吉野教育長

東京書籍や帝国書院は、単元のまとまりを意識した紙面構成になっていると思った。例えば、東京書籍は、単元の導入の活動を受けて、その単元を貫く「探究課題」を設定し、まとめの活動で再度「探究課題」を生徒に問いかけることで、深い学びが実現するよう工夫されている。

帝国書院は、単元の初めに「章の問い」、「節の問い」を設定して、それに対応した「学習課題」をそれぞれ見開きに置くことで、生徒が見通しを持って主体的に学習に取り組むことができると思った。単元の最後には積み重ねた学習内容を活用して、「章の問い」、「節の問い」を振り返りながら深い学びへとつなげている。さらに、巻頭に「地理的分野の学習の全体像を見通そう」のページを設けて、単元同士がどのような位置付けなのかを生徒自身が捉えられるようになっている。

見通し・振り返り活動のしやすさという点で考えると、私は帝国書院がよいと思った。

○林委員

帝国書院は、各節の学習のまとめで「私たちとの関わり」というコーナーを設け、学習したことを日本や生徒が住んでいる地域、生活と関連付けて考える問いを設定している。

中学校の地理の学習では、日本国内だけでなく、世界中の様々な地域について学習を深めていながら主体的に社会の形成に参画する態度を養うことが大切だと思う。学習したことと自分たちの生活との関連性を考えさせることは、これからの社会を生きていく子どもたちにとって、非常に重要なことだと考えるので、私も帝国書院がよいと思った。

○吉野教育長

帝国書院を推す意見が多いようであるが、水谷委員、いかがか。

○水谷委員

改めて皆さんの話を聞いて、いろいろ工夫されていることが良く分かった。帝国書院でよいと思う。

○吉野教育長

それでは、社会科・地理的分野につきましては、帝国書院ということによいか。

【結果】

全員異議なく「帝国書院」が採択された。

【地図】

○吉野教育長

続いて、地図に移る。

○水谷委員

帝国書院の地図帳は、大きくてインパクトがあり、地図がとても見やすいと感じた。世界の6州全てに大きな鳥瞰図を設けているので、生徒が興味・関心を持って世界のそれぞれの州の学習に取り組めると思う。また、縮尺が同じ図が複数掲載されているので、各図を比較したり、検討したりしやすくなっていることから、考えを深めていけるのではないかと感じた。

○目黒委員

私も同じ意見である。大きな鳥瞰図は、地域の特色がとてもイメージしやすいと思った。イラストも多く掲載されていて親しみやすく、地形だけでなく、その地域の自然環境や生活、産業などの様々な特色が、より視覚的に理解できるよう工夫されていると思った。

帝国書院の地図帳は、小学校でも使われているので、生徒にとっても馴染みやすく、使いやすいと思う。地図の色が鮮やかな点も特徴的で、見やすさという点でも配慮されていると感じたので、帝国書院がよいと思う。

○林委員

私も、帝国書院がよいと思う。世界地図に、同緯度・同縮尺の日本地図が掲載されているところが印象的であった。世界の国々と日本の大きさ比べや、緯度や経度による位置関

係の比較がしやすくなっていると思う。また、世界各地と日本とのつながりを示した「日本との結びつき」という資料も設けられていて、国際社会への関心度も高まるのではないかとも思う。

○梶原委員

私は、地図の学習以外での活用について検討した。東京書籍も帝国書院も、歴史や公民の学習で活用できる資料ページがいくつか設けられ、他分野との関連が図られている。

さらに、帝国書院は、日本の主要都市の中心部を5万分の1という詳細な地図として掲載しているので、今年はコロナウイルスの関係で修学旅行がどのようになるかは分からないが、教科学習以外でも活用でき、多目的に活用できるという点で、帝国書院がよいと思った。

○吉野教育長

私も帝国書院がよいと思う。A4サイズの大判化した資料は、やはり大変見やすいし、今まで以上に地域全体の様子や地域間のつながりが捉えやすくなっていると思う。また、重さの面でも東京書籍に比べて軽いので、生徒の持ち運びや負担軽減を考えると、帝国書院の方がよいと思う。

ここまで、帝国書院を推す声が多いようであるが、地図については、帝国書院でよいか。

【結果】

全員異議なく「帝国書院」が採択された。

【社会（歴史的分野）】

○吉野教育長

続いて、社会科・歴史的分野に移る。いかがか。

○目黒委員

各者の教科書を見て、帝国書院には、地図とイラストによる「イラスト世界地図」というページがあり、日本の歴史と世界の歴史との関わりが視覚的に捉えやすいように工夫されている。また、コラムや特設ページを使って学ぶことで、生徒は多面的、多角的に日本の歴史を捉える力が身に付き、様々な活動を通して、深い学びが実現できると思う。

東京書籍は、單元ごとに行うまとめの活動が工夫されていると感じた。思考を整理するための「くらげチャート」や「Xチャート」等の多様なツールが提示されており、生徒が興味を持って主体的にまとめられるようになっていてよいと思った。

○梶原委員

帝国書院では、まとめの活動の中で、各章の学習課題について、一人一人の考えをグループの中で説明し意見交換することで、より深い学びとなるよう工夫されていてよいと思った。

また、対話的な活動ということでは、東京書籍の「みんなでチャレンジ」が印象に残っ

ている。導入やまとめの活動の中で、このことが多く掲載されていて、対話的な授業の実現につながると思う。

以上のことから、帝国書院か東京書籍がよいと思う。

○林委員

歴史的分野は多くの出版者から提示があった。その中で、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版は、今学習しているページがどの世紀、どの時代にあたるのかが一目で分かるように、ページの端に年表が掲載されており、大変分かりやすいと感じた。

その中でも、帝国書院は、年表インデックスと巻末の世界史年表を対応させると、世界の出来事の様子も分かり、工夫されていてよいと思った。

時代を俯瞰する工夫として、山川出版では、各章の始めに、これから学ぶ時代における日本と世界の出来事が帯年表で示され、時代の流れが理解しやすいように工夫されていた。また、その章で学ぶ主な出来事等の写真が順に掲載されており、章の中で学ぶ時代がどんな時代であるのか、視覚的につかめるよう工夫されていてよいと思った。しかし、その一方で、中学生にとっては全体的に難しいのではないかという印象もあった。

育鵬社については、各章の始めにある「鳥の目でみる」「虫の目でみる」が印象に残っている。「鳥の目でみる」は、これから学ぶ時代の出来事がイラストで順番に示され、生徒は歴史の流れを一目で理解できると思った。先程述べたような各ページの年表もあれば、なお良かったと思う。

同じく、各ページの年表は無いが、学び舎は、A4サイズで大きな紙面のため、写真やイラスト、見出しの文字が大きく、大変読みやすいのが印象的であった。

○吉野教育長

私も、年表はどの者も非常によく工夫されていると感じた。その中で私は、帝国書院の「タイムトラベル」が大変気に入っている。それぞれの時代ごとの社会の様子が見開き2ページで掲載されている。例えば、縄文時代と鎌倉時代を見比べてみると、時代の様子が大きく変化していることが視覚的に分かり、その時代の特色がつかみやすく、非常によいと思った。

○水谷委員

私は、歴史には2つのつながりがあると思っている。それは、「現代までのつながり」と「世界とのつながり」である。

帝国書院の「タイムトラベル」は、前者の「現代までのつながり」に当たるところであって、教育長が言われたように、私としても大変よい工夫であると感じている。また、章・節・1時間の授業ごとに、問いと振り返りがあり、課題解決的な学習を行うことで、深い学びの実現が可能になると思った。

○吉野教育長

帝国書院を推す声が多いようであるが、帝国書院でよいか。

【結果】

全員異議なく「帝国書院」が採択された。

【社会（公民的分野）】

○吉野教育長

続いて、社会科・公民的分野に移る。いかがか。

○林委員

私は、二者挙げさせていただきたいが、一つは東京書籍、もう一つは教育出版である。

公民というのは、知識をひたすら覚えるだけではなくて、自分で考えて、他の人と話し合っ、社会とのつながりを考える科目だと思う。言語活動に注目してみると、東京書籍や帝国書院、育鵬社は、対話的な学習例が豊富に設定されている。その中でも、より多くの例が設定されている東京書籍に魅力を感じた。

その一方で、教育出版の丁寧な言語活動の扱いも大変よい。まとめのスリーステップとして、表現する活動・考える活動が位置付けられ、まとめの活動がとても充実している。

また、併せて「言葉で伝えよう」、「読んで深く考えよう」というページも用意されており、言語活動については非常に充実していると感じた。

○目黒委員

生徒たちの興味や関心を喚起するための導入資料について、各者、とても工夫していると感じた。その中でも特に、教育出版は、見開きページ左上段に多くの写真等を掲載するだけでなく、読み取りの視点に気付かせる「Look」が効果的に掲載されていたり、キャラクターのつぶやきに学習のきっかけとなるポイントが示されていたりする等、生徒が無理なく学習に取り組むことができるような工夫がされていると思った。

このような理由から、私は教育出版がよいのではないかと思います。

○梶原委員

私は、教育出版か日本文教出版がよいのではないかと思います。日本文教出版には、指で触って分かる実物の点字が掲載されているが、生徒が一斉に同じ意味の点字に触れられることは障がい者の視点を感じることができるので、日本文教出版はよいと思う。

教育出版は、目黒委員も言われたが、資料が豊富なことに加え、図や写真の見方や解説等が記載されており、生徒が学習を通じ、資料の見方を学べる教科書だと考える。

○吉野教育長

私も教育出版がよいと思う。自由社にはシンプルであるというよさがあると思うが、学習指導要領で求められている「諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」ことを考えると、写真や資料が多く、単元の振り返りやまとめ等が設定されている教科書がよいと思う。

その中で、教育出版は、皆さんが言われたことに加え、「ノートづくり」についても触れられており、このことも生徒が自主的に学習に取り組む際に大変役に立つと感じた。

また、用語解説に「感染症」についても触れられているところもよいと思った。

○吉野教育長

公民については、教育出版を推す声が多いようであるが、教育出版でよいか。

【結果】

全員異議なく「教育出版」が採択された。

【数学】

○吉野教育長

続いて、数学に移る。いかがか。

○梶原委員

私は啓林館がよいと思う。数学は積み重ねの教科であり、スパイラルな学習を行うことが大切である。その意味で、啓林館は特に系統的にまとまっていたと思う。

学校図書の巻末折り込みにある「アイデアボード」は、個人やグループで考えたり話し合ったりするときに便利だと思った。

○林委員

私も啓林館がよいと思う。教育出版は、ページの右端にある側注に「数学的な考え方」や「もどって確認」等が示されているため、数学を苦手とする生徒にもサポート体制が整っていると感じたが、啓林館では、章末問題や巻末問題が生徒の学習状況に応じて取り組むことができるよう工夫されていて、生徒に数学の力を付けることができると思った。

○目黒委員

小・中のつながりという視点で考えると、数研出版の1年生の発問が小学校と同じ「～しましょう」という表記だったので、「中1ギャップ」にも配慮されていると思った。

また、啓林館と日本文教出版、そして大日本図書の1年生では、文末が「ですます」調のやわらかい表現が使われているため、生徒にとっても「数学」という教科を受け入れやすくなっていると思う。

今回の学習指導要領の改訂では、数学的活動の一層の充実とともに、「統計的な内容の改善・充実」が図られた。特に、今回の改訂で初めて中学で扱うことになった「箱ひげ図」については、大日本図書の説明が分かりやすく、よさが簡潔にまとめられていると思った。また、啓林館では「箱ひげ図のよさ」、「箱ひげ図から読みとれないこと」が特に詳しく説明されていた。

これらのことから、私は啓林館か大日本図書がよいと思う。

○水谷委員

数学は生活に必要な教科であり、将来必ず使う、役に立つ教科だと考える。東京書籍、教育出版、啓林館は、章の導入で実生活に活かせるような場面が多く扱われているので、

その章を学習する必要性を感じることができるのではないかと感じている。

そして、啓林館の2部構成は、授業と家庭学習が明確に分かれているため、生徒の学習状況や興味、関心に応じて取り組めるよう、工夫されていると思った。

○吉野教育長

私は、教員時代に数学を教えていたこともあり、平塚の子どもたちには「数学って面白いな」、「数学って楽しいな」、そんな思いを持ってもらいたいと思っている。「数学って難しい、嫌い」という思いをなるべく少なくするためには、スタートが肝心である。

そのためにも、中学校に入学して1年生のスタートにおいては、正の数・負の数から入って、新しい世界への広がりワクワク感を持って取り組んで欲しいと思っている。さらに、2年生、3年生になった際には、数学の本質に触れ、数学の奥深さを味わってもらいたい、また、数学の系統性を重視したいと感じる。

そういったことを考えると、啓林館がよいのではないかと思う。

○吉野教育長

啓林館を推す声が多いようであるが、啓林館を採択するというだけでよいのか。

【結果】

全員異議なく「新興出版社啓林館」が採択された。

【理科】

○吉野教育長

続いて、理科に移る。いかがか。

○目黒委員

教科書を見て、どの発行者も学びの過程を丁寧に説明していると感じた。

大日本図書、学校図書、啓林館では、巻頭にある学習や探究の進め方において、各学年で主に重視する探究の学習過程が、意識できる作りになっていると感じた。

その中でも、大日本図書、学校図書では、重視する過程が強調されているので、生徒がより自覚できると感じた。私は大日本図書、学校図書のどちらかがよいと思う。

○水谷委員

私が行っている事業や会社では、昨今いろいろと話題となっている、国連が定めるSDGsの取組について関係性もあるので、まずはその視点に注目してみた。各者とも、SDGsと関係の深いコラム等を掲載しているが、その中で学校図書は、理科の学び方を示した「1年生の理科のトリセツ」でSDGsを達成するために必要な知識・考え方・態度を理科の中で学ぶということが記載されていた。

理科を学習するとともに、SDGsが何をゴールとし、どんなことをしていくのかを考えるよいきっかけを与えていると思う。そういう視点で見ると、私は学校図書がよいと思う。

○林委員

SDGs に代表されるような世界的な課題を解決するために、理科で何を学ぶかは非常に重要な意味を持つてくると思っている。もちろん各者とも工夫を大変凝らした作りとなっていたが、その中で、私は大日本図書の「くらしの中の理科」や「Science Press」というコラムは読みやすく、内容も分かりやすいと感じた。これをもとに、理科を学ぶ意義や学んだことが、生活の中でどのように生かされてくるのかについて学べると思うので、私は大日本図書を推したいと思う。

○梶原委員

私は、理科の授業において、実験・観察は生徒にとっても非常に楽しみなものだと思う。一方で、実験は危険を伴うものなので、進め方やそれを安全に行うという観点で見てみた。各者とも理科室の使い方や実験器具の使い方等が丁寧に記載されていて甲乙付けがたかったが、その中でも東京書籍・教育出版・啓林館は、実験・観察中の注意事項をそれぞれマークにして、よりわかりやすく、また、細かく注意喚起していた。私は、東京書籍・教育出版・啓林館のいずれかがよいと思う。

○吉野教育長

私は、単元末の扱いについて見てみたが、大日本図書と啓林館は、単元末問題等の構成がしっかりしていて、基礎から活用までを生徒自ら学ぶことができる作りになっていると思う。また、単元の学習が基礎的な内容の確認から活用に至るまでまとめて掲載されていて、一つ一つステップアップするように確認しながら学習を進められると思う。

さらに、林委員からもあったが、大日本図書の「くらしの中の理科」や「Science Press」というコラムが、生徒の興味・関心を引き出してくれるのではないかと考えられる。理科に限ったことではないが、興味、関心は学びの深さに大きく影響を及ぼすものである。

そういったことを総合的に考えると、私は、大日本図書がよいと思う。皆さん、他の委員の話聞いて、いかがか。

○水谷委員

教育長が言われたように、自ら学ぶことができるという観点は、確かに今の子どもたちに必要だと思うので、私も大日本図書がよいと思う。

○目黒委員

大日本図書と学校図書で迷っていたが、皆さんの話を聞いて、大日本図書のよさが明確になった。大日本図書がよい。

○梶原委員

調査員からの報告や、今日の皆さんの意見等、総合的に考えると、私も大日本図書がよいと思う。

○吉野教育長

大日本図書という声が多いようであるが、理科は大日本図書ということでよいか。

【結果】

全員異議なく「大日本図書」が採択された。

【音楽（一般）】

○吉野教育長

続いて、音楽に移る。始めに、音楽（一般）からであるが、いかがか。

○林委員

感想を述べると、教育出版も教育芸術社も、構成が大変美しいと思った。採択検討委員会では、どちらの発行者も写真や資料を効果的に使っているという話があったが、写真や挿絵が大きくて美しく、音楽の世界に引き込んでくれるようである。

また、オペラや歌舞伎、文楽等、様々な音楽や芸能が取り上げられていて、どちらも大変充実していると感じる。

○水谷委員

私は、教育芸術社がよいと思う。どちらの発行者も巻末に合唱用の曲集が載っているが、教育芸術社の方が、比較的生徒がよく知っている曲が載っているという印象を受ける。

また、歌う時に気を付けてほしいポイントが楽譜の右上に掲載されているので、生徒も先生も意識しながら、よりよい合唱を作り上げていくことができるのではないかと思った。

○目黒委員

私も教育芸術社がよいと思う。教育芸術社は、リズム、旋律、音色等の「音楽を形づくっている要素」が各教材に示されていて、常に生徒が意識して学習に取り組めるようになっている。この「音楽を形づくっている要素」を手がかりに音楽を感じとったり、表現したりすることが、音楽の美しさや面白さを感じることもつながっていくと思う。

○吉野教育長

教育出版は、主に比較することを手がかりにして学ぶ構成になっている。比較することで、音楽の美しさや面白さを感じたり、音楽の特徴を理解したりすることもできて大変よいと思うが、学習を深めるという点では、若干の物足りなさを感じる。

教育芸術社は、目黒委員が言われたように、「音楽を形づくっている要素」を中心に構成されている。リズムや旋律、音色等に注目して、音楽を聴いたり表現したりすることが、実感を伴った理解や音楽の本質に迫ることにつながるのだと思った。

○梶原委員

私は音楽については素人であるが、私も教育芸術社がよいと思う。著名人や指揮者、歌手や演奏者等の言葉は、生徒が音楽を身近に感じられるものになっていると思う。私のよ

うな素人でも身近に感じられた。

○吉野教育長

梶原委員が言われたように、音楽を身近に感じられるということは、生涯にわたって音楽に親しむ態度を育むことにもつながっていくと思う。

皆さんから意見を伺うと、教育芸術社を推す声が多いかと思うが、林委員いかがか。

○林委員

皆さんの話を伺って、私も教育芸術社がよいと思った。教育出版にも、教育芸術社にも、目次の後に1年間の学びを俯瞰できるページがあるが、特に教育芸術社は、学習指導要領に示された3つの資質・能力とそれに対応する学習内容が一覧になっている。

このページを確認することによって、生徒は1年間でどういう学習をし、どんな力を身に付けていくのか見通しが持てるし、現場の先生もねらいを明確にして学習を進めていくことができるのではないかと思う。

○吉野教育長

それでは、皆さん教育芸術社という意見であるので、音楽（一般）は、教育芸術社を採択するという事によいか。

【結果】

全員異議なく「教育芸術社」が採択された。

【音楽（器楽合奏）】

○吉野教育長

続いて、音楽（器楽合奏）に移る。いかがか。

○梶原委員

器楽合奏についても同じように素人である。両方で楽器の掲載順が違うが、どちらも写真がたくさん盛り込まれていて、見やすいなと思った。甲乙付けがたい。

○目黒委員

教育芸術社は、生徒たちの主体的・対話的で深い学びを実現するための手立てが非常に丁寧だと感じた。特に「深めよう！音楽」というコーナーでは、考えたり話し合ったりするための視点が明記されている。これをヒントに学習を深めていくことができるのではないかと思う。

教育出版は、音楽（一般）と同じように、比較することで楽器の特徴を理解できるよう構成されているが、学習を深めるという点では、少し物足りなさを感じる。

○水谷委員

目黒委員が言われたとおり、教育芸術社は確かに解説が丁寧であると感じる。打楽器の

ページでも、いろいろな演奏方法が、写真入りで丁寧に説明されているので、これを見れば、個人でも打楽器の練習ができると思う。

○林委員

私も教育芸術社がよいと思う。各楽器の最初のページに、その楽器が使われている鑑賞曲が紹介されているのは、生徒に学習への期待をもたせることができると感じた。

また、音楽（一般）でも「音楽を身近に感じる」ということが話題に挙がったが、和楽器の合奏に取り組む中学生の姿が教育芸術社には掲載されている。和楽器というのはあまり中学生にとって馴染みがないものであるが、同世代の仲間が部活動で和楽器を演奏したり、和楽器の演奏を通して伝統を受け継いだりしている姿は、和楽器を身近に感じることにもつながっていくと思う。

○吉野教育長

私は趣味でギターを弾くが、コード表が少し気になった。教育出版にも教育芸術社にもギターのコード表が掲載されている。教育出版のコード表は、押さえるコードが写真で掲載されている。一方で、教育芸術社は写真ではないが、指のイラストとともに押さえるところが青い点で示されている。

写真であると、弦を押さえる時に指を立てて他の弦に触れないようにするということはよく分かるが、弦を押さえる時にどの弦の何フレット目を押さえるのかは、他の指で隠れてしまい、写真だけではやや分かりづらい。イラストで示している教育芸術社は、押さえるところが青い点で示され、どの指でどのフレットを押さえるかは分かりやすいが、指を立てるのか、寝かせるのかは分かりづらい。

それぞれに一長一短はあるが、ギターは未経験の生徒が多く、初心者にも分かるということでは、どの指でどこを押さえるかが一目でよく分かる、教育芸術社の方がよいのではないかと思う。

さて、ここまで、教育芸術社がよいという意見が多いが、梶原委員いかがか。

○梶原委員

皆さんの意見を伺い、私も教育芸術社がよいと思った。

○吉野教育長

教育芸術社がよいという意見が多いようであるが、いかがか。

【結果】

全員異議なく「教育芸術社」が採択された。

【美術】

○吉野教育長

それでは、美術に移る。いかがか。

○水谷委員

どの教科書も、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」を扱っていて、扱い方が3者で異なっているようである。光村図書と日本文教出版は原寸大で、開隆堂は部分拡大で扱っていた。

○吉野教育長

光村図書は、北斎の「神奈川沖浪裏」の裏面に、ゴッホの「星月夜」が掲載されていて、鑑賞の際に2つの作品を関連付けることで、西洋美術への影響についても考えられるようになっていて大変よいのではないかと思います。

○林委員

私も光村図書がよいと思ったが、先程の浮世絵と西洋美術の関連もそうであるが、絵巻物の「鳥獣人物戯画」と漫画の表現の関連性についても述べてられていて、原寸大で見られるのも魅力的である。現代の漫画の表現は、物語を伝える絵巻物から影響を受けていることが良く分かるように説明されているのがよいと思った。

○梶原委員

開隆堂は「学習のポイント」で、日本文教出版は「造形的な視点」という吹き出しで、学びを深めたり、生徒への気づきを促したりしている点がよいと思うが、私は光村図書を推したいと思う。吹き出しではないが、表現する時の視点、鑑賞の視点と分けて記載することで、視点がはっきりするようになった。題材の初めに位置づけた「鑑賞」では、対話が生まれるような問いが示されているのもよいと思う。

○目黒委員

私も光村図書がよいと思う。日本文教出版は3冊で資料が多いのは魅力的であるが、授業で扱いきれるのかを考えてしまった。開隆堂や日本文教出版の見開きのページの資料等は、とても迫力があって素晴らしいと思うが、美術書を見ているような感じがある。授業で使う教科書という点で考えると、生徒作品の制作過程が例示してある光村図書が魅力的である。表現の題材には、発想や構想の手がかりになるような生徒の作品や、「みんなの工夫」として生徒の制作の過程が載っている。これは生徒が作品を作る時に、とても参考になると思った。

○吉野教育長

今回の学習指導要領の改訂では「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができる」生徒の姿を念頭に置いて、目指す資質・能力が具体的に示された。こういう視点で教科書の「デザインや工芸」の分野を見ると、例えば、どの者も「パッケージデザイン」について扱っているが、開隆堂と日本文教出版は、形や色彩等の造形的な要素と用途に注目している。

一方で、光村図書は、お土産等の「地域の魅力を伝えるパッケージ」という具体的な題材を提示していて、自分の生活と美術の関わりをより身近なものとして捉えることができると思う。その点から考えると、それぞれ一長一短はあると思うが、私は光村図書がよい

と思う。

○水谷委員

光村図書は、巻末に材料や用具や技法についての「学習を支える資料」があり、各題材の下部に関連する巻末資料のページが示されている。また、道徳科との関連については、各者で記載はあるが、光村図書は道徳科の内容項目を示し、関連を具体的に示しているのので、分かりやすい印象を持った。私も光村図書がよいと思う。

○吉野教育長

皆さん、光村図書という意見のようであるが、それでよいか。

【結果】

全員異議なく「光村図書出版」が採択された。

【保健体育】

○吉野教育長

続いて、保健体育に移る。いかがか。

○目黒委員

各者見開き2ページを1時間で学習することを基本として、課題の把握、本文・資料をもとに考えたり話し合ったりする学習活動があつて、まとめる、活用するといった学習の流れが分かりやすい構成になっていると思った。

大日本図書は、意図して本文を左ページに、資料を右ページに配置しているが、構成上、学習の流れを大切に考えると、本文に即して資料が掲載されている東京書籍、大修館、学研教育みらいがよいのではないかと考える。

○林委員

私も学習の流れを大切に考えると、東京書籍か学研教育みらいがよいのではないかと考える。大修館に比べると東京書籍は、例えば「熱中症」や「感染症」が流行する前に学習できるよう配列が工夫されている。学研教育みらいは、深い学びが実現されるよう各学年において、課題学習に時間が取れるよう内容構成が工夫されている。

学習の流れに加え、配列や内容構成に工夫がみられる、東京書籍か学研教育みらいのいずれかがよいと考える。

○梶原委員

学習を深めるという意味では、どのような資料が提示されているかも重要であると考えられる。医者である立場から見ると、どの教科書も感染症については、病原体の種類や感染経路が資料に詳しく掲載されているが、大修館と学研教育みらいは、その他の感染症に関連する資料やコラムが科学的に一步踏み込んだ内容で掲載されている印象がある。こうした資料をきっかけに生徒が学習を深めることができると思った。大修館か学研教育みらいが

よいと思う。

○水谷委員

私は、学研教育みらいがよいと思った。運動やスポーツを「する」、「見る」、「支える」といった、運動やスポーツの多様性やスポーツの持つ価値を学ぶ体育理論は、生涯スポーツの視点からも大切にしてほしい学習内容だと考える。

学研教育みらいには、学習内容を更に広げることができるよう章末に「探究しようよ」という課題学習が設定されている。この「探究しようよ」で取り上げられている、マラソンシューズが厚底シューズへ進化することを例に、スポーツの歴史を調べる課題があるが、昨今、マラソンでは世界記録が多く生まれている背景があることから、生徒にとって特に身近に感じられ、新しい題材を取り扱っていることは、興味を持って学習する上で大切なことだと考える。

また、今、スポーツ界もデータの活用がとても重要な役割を担っている。私が取り組んでいる仕事でもそうであるが、これからは特に重要となってくると思う。健康の保持増進において、学研教育みらいは教科書全体にわたって、情報と向き合い積極的に活用する視点が随所に盛り込まれていると感じた。

○吉野教育長

私も東京書籍が学研教育みらいがよいのではないかと思ったが、梶原委員、水谷委員が言われたように、社会の変化と様々な情報、生徒の健康課題、学習課題に対応している点で考えると、学研教育みらいがよいのではないか。

ここまで皆さんの意見を総合すると、学研教育みらいを推す意見が多いが、保健体育については、学研教育みらいでよいか。

【結果】

全員異議なく「学研教育みらい」が採択された。

【技術・家庭（技術）】

○吉野教育長

続いて、技術・家庭（技術分野）に移る。いかがか。

○水谷委員

各者とも、問題解決のプロセスがガイダンスで説明されていて、これに沿った構成となっているが、特に東京書籍と開隆堂は「評価、改善・修正」のプロセスまでしっかりと扱われているところがよいと思った。

学習指導要領にも、製作の過程や結果を評価、改善することについて記載されているが、実行したことを振り返り、継続的に改善していくことは、社会に出てからも非常に大切である。このようなことから、私は東京書籍と開隆堂がよいと思う。

○林委員

東京書籍は、実践的な活動例においても、製作過程の材料や用具の扱い方等の写真を掲載している。生徒の体験活動に対し、学びやすいよう配慮されていると考える。

また、学習の初めに対話的な活動例が掲載され、生徒同士が協働して、比較・検討しながら、学習課題を見つけることができると感じた。

○吉野教育長

私も東京書籍は、基礎技能について写真等を使って細かく説明されていると感じた。

また、実践的な活動例がとても豊富で、生徒の想いや考えを生かした体験活動ができるのではないかと感じた。私も東京書籍がよいのではないかと思う。

○梶原委員

情報モラルについては、各者多くの事例を扱っているが、東京書籍と教育図書は、情報技術のマイナス面だけでなく、プラス面についても触れており、これからの社会を生きていく子どもたちにとって、その両面を学ぶことは大切だと思う。このような理由で、私は東京書籍と教育図書がよいと思った。

○目黒委員

学習指導要領では、「技術の見方・考え方」を働かせて学習することが示されている。

東京書籍には、11 ページに「技術の見方・考え方、最適化の窓」が設けられており、各編の初めにも「技術の見方・考え方」、「発見！技術の最適化」が記載されている。教科書全体を通して、このような点を意識できる作りになっているので、東京書籍がよいと思う。

○吉野教育長

技術については、東京書籍を推す声が多いようであるが、東京書籍でよいか。

【結果】

全員異議なく「東京書籍」が採択された。

【技術・家庭（家庭）】

○吉野教育長

続いて、技術・家庭（家庭分野）に移る。いかがか。

○林委員

私は、東京書籍がよいと思う。調理実習のページが見開きで調理の流れが掲載されているのがよい。家庭科では、実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識と技能を習得することが必要であるが、基礎的・基本的な技能が「いつも確かめよう」というところに丁寧にとまっていて、写真も鮮やかで大きく、とても見やすいと感じる。

また、現代的課題については、3者とも環境教育、防災教育等に配慮した記述があるが、東京書籍は巻末に防災減災手帳が付いていて、生徒が書き込んで、教科書から切り離して

持ち歩けるような工夫がなされているのがよいと思った。

○目黒委員

私は、開隆堂がよいと思う。3者とも、学習の初めに目当てや目標が示されているが、開隆堂では、さらに、自分の生活との関わりから学習がスタートできるように、自分の生活と関わりが深い内容の発問が掲載されている。自分のことに引き付けて、主体的に考えるという点では開隆堂がよいと思う。

調理実習のページでは、調理の流れが横一列で示されていて、より多くの調理場면을説明できる点は東京書籍と同じであるし、科学的な視点の資料である「調理方法Q&A」があるのが特徴的であると思う。食品の概量を把握するために、実物大の食品の写真が東京書籍と同じく、開隆堂にも掲載されていた。

○水谷委員

目黒委員が言われた、教育図書にも食品の実物大の写真は掲載されているが、私は東京書籍がよいと思う。東京書籍は、何より写真が魅力的で、調理実習は思わず作ってみたいくなるような編集がされている。

教育図書は、調理実習の手順が縦方向で示されているところが他者と違うところである。

また、課題解決学習のテーマや「やってみよう」等、生徒が主体的に取り組む学習活動や資料が豊富であるが、情報量が少し多いのではないかという印象を受けた。

○目黒委員

開隆堂は、多様な他者との関わり方を重視している感じがする。障がいの有無や年齢、性別や性の在り方、収入、国籍、民族に関わらず、多様な人々が違いを認め合って、自分らしく生きられる社会を目指す、という視点に好感が持てる。

開隆堂も巻末に「災害からいのちと生活を守るために」という特集はあり、現代的課題という点では、開隆堂は各分野の最後で、SDGsのマークを使って持続可能な社会に向けて考えを深めるようになっていくところは特徴的だと思った。

○吉野教育長

SDGsは教育活動を進めていく上で、とても大切な視点であると思う。持続可能な社会を目指して生活の工夫を考える学習は、東京書籍でも扱われている。

東京書籍では、中学校で学習を始めるときのガイダンスに必要である、課題解決学習の仕方や生活の営みに係る見方、考え方が巻頭に分かりやすく掲載されている。

さらに、小学校からの系統的な学習や中学校技術分野や、他教科等との関連を図りながら学習への興味を広げられるように工夫されている。総合的に考えると、私は東京書籍がよいと思う。

○吉野教育長

目黒委員は開隆堂ということで話されていたが、いかがか。

○目黒委員

皆さんの話を伺う中で、東京書籍のよさも明確になってきた。東京書籍も優れている点が多くあるので、東京書籍で結構である。

生徒として学ぶ立場からすると、視覚に訴える情報が充実しているのは、平塚の子どもたちに合っていることは確かであると思う。また、基礎的な技能について、写真等を使って細かく説明されていて、実用性が高いとも思う。家庭科は、日々の生活に直結している教科であるので、実習例が分かりやすいのはよいと思う。

○梶原委員

私も、東京書籍がよいと思う。東京書籍は、写真も鮮明で視覚的にも理解しやすく、家庭で学習をする時も生徒が使いやすいと感じるのではないかと感じる。

○吉野教育長

皆さんの意見から、技術・家庭 家庭分野については、東京書籍ということによいか。

【結果】

全員異議なく「東京書籍」が採択された。

【英語】

○吉野教育長

それでは、英語に移る。いかがか。

○水谷委員

私は、開隆堂がよいと思う。日常会話の中で使える英語を覚えるためには、ある状況や場面でどのような表現が使われるのかを知る必要がある。

開隆堂は、PROGRAM の最初に「Scenes」という2コママンガの中で、これから学ぶ英語の表現を知ることができる。ただ英語の文章を読むよりも、2コママンガで内容や英語の表現を確認してからの方が、どのような状況で使う表現なのかをより理解しやすいであろうし、使える英語を覚えることに役立つのではないかとと思う。

また、内容という点では、啓林館の2、3年生にある「More Information」は面白いと思った。本文の内容に関わる情報が更に説明されていて、「もっと知りたい」という生徒の気持ちに応えられると思った。

○梶原委員

各者それぞれ写真や絵が豊富に使われていて、見やすい紙面であると思う。

東京書籍は他者よりサイズが大きい分、より見やすく感じた。また、各者とも1年生の教科書は絵が多かったり、本文もあまり長くなかったりして、内容が理解しやすいと思う。

教育出版では、レッスンに入る前に小学校で学んだことをすごろくで確認でき、楽しみながら、小学校で学んできた英語とのつながりを意識して中学校で学び始めるので、抵抗感も少なく感じると思った。

○林委員

私は三省堂がよいと思っている。先程、水谷委員が話されていたように、生徒たちは実際に「話せる」、「使える」英語を学びたいと思っていると思う。

例えば、2年生の教科書であったと思うが、飛行機のチケットを見ながら空港でのアナウンスを聞き取る場面をはじめ、電話でのやりとり、天気予報、インタビュー、ボイスメッセージ等、場面設定の例が多く、状況や場面が設定されている中での学習は、英語の向上に非常に役に立つと思う。

実生活と結び付けて教科書の内容が学べると、より英語が身近なものに感じられると思うし、生徒たちの学ぶ意欲にもつながるのではないかな。

○目黒委員

私は、光村図書と三省堂がよいと思う。光村図書は、3年間通して内容にストーリー性があるので、生徒は学習していく自分と、登場人物の成長を重ねながら、また楽しみながら学習していけるのではないかなと思う。

三省堂は、新しく学ぶ英語の表現を他の文と比較して、違いに気付きながら学ぶことができるようになっている。また、横にはドリルがあって、単語を入れ替えて話したり、読んだり、書いたりしながら繰り返し練習することで、基礎基本の定着につながると思う。

また、文法のポイントは、太字で分かりやすく記されているだけでなく、そのページに載っているキャラクターのペンギンが発する言葉が、生徒の気付きの助けにつながるようなものがある。そういう点でポイントが押さえやすく、覚えやすい構成だと思う。

○吉野教育長

私は、三省堂がよいと思う。三省堂は、1つのレッスンの中で、様々な活動がバランス良く取り入れられていると思う。「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」活動を通して本文の内容を理解するだけでなく、「Use Read」では長文読解、「Use Write」で目的に沿った書く活動、「Use Speak」ではスピーチや話し合い活動がレッスンごとに用意されていて、繰り返し練習できるところがよいと思う。

次によいと思ったのは、光村図書である。巻末には、話すことの「やりとり」、「発表」という領域について、繰り返し練習できる付録があり、即興で話す力を身に付けるのに役立つと思う。英語を学びたい、話したい、という生徒の気持ちに応え、楽しみながら学習し、自然に口をついて英語の表現が身に付けられるのではないかな。

○水谷委員

確かに、三省堂では、日常会話で使われるようなふとした表現や相づち等、会話を始めたり終えたりする表現が付録に載っていて、生きた英語を学ぶという点では有効であると感じる。

○吉野教育長

ここまでの話を伺っていると、英語については三省堂という意見が多いようである。梶原委員、いかがかな。

○梶原委員

皆さんの話を聞いて、三省堂のよさがよく分かった。三省堂でよいと思う。

○吉野教育長

それでは、英語については、三省堂でよいか。

【結果】

全員異議なく「三省堂」が採択された。

【道徳】

○吉野教育長

それでは、最後に道徳に移る。いかがか。

○林委員

「議論する道徳」が大切だと言われているが、議論するためにはそのきっかけとなる「問い」が重要だと考える。各者、教材末に「問い」があるが、光村図書は、2つの中心となる問いの他に、「見方を変えて」と「つなげよう」という問いが用意されていて、多面的・多角的に考えさせたり、自分とつなげて考えさせたりすることができる。

また、議論するという点では、東京書籍の巻末にある「心情円」や「ホワイトボード用紙」がとても興味深い。議論するためのよいツールになると思う。

○水谷委員

議論というのはとても大切であると思う。議論をするためには、自分の考えをしっかりと持って議論に臨む必要がある。東京書籍と学研教育みらいには、教材の下にメモ欄があり、自分の考えを書くことができると思った。

日本文教出版や廣済堂あかつきには、道徳ノートが付いていて、ノートに自分の考えを書き込むことができるので、議論する時に役立つのではないか。

また、光村図書の巻末には、毎時間ごとの学習の記録を書くことができる「学びの記録」があるのもよいと思った。自分の考えの変化が分かり、振り返る時に大変有効であると感じた。

○吉野教育長

道徳が教科化された背景に、いじめ問題が関わっている。このことから、いじめ問題への対応がしっかりとできる教科書がよいと思う。

東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版は、いじめ問題に対応するために、複数の教材で学習する「ユニット形式」を採用している。複数の教材を通していじめについて考えることで、いじめ問題をいろいろな角度から捉えられるように工夫してあって、とても効果的であると思う。

その中でも光村図書は、ユニット学習の中に「深めたいむ」という教材があり、活動を通していじめについて考えを深めることができると大変よいと思う。

このように複数の教材で重点的に学ぶというのとは違い、日本教科書は内容項目ごとに並べられているので、いじめ問題に対して重点的に扱えないことが少し懸念される。また、毎時間、扱うページがあちこちに飛ぶので、使いにくいように感じた。

以上のことから、私は光村図書がよいのではないかと思う。

○梶原委員

議論するには、まずは課題を自分の事として捉えられることが必要になってくる。そのような視点から、私も光村図書の「深めたいむ」はよいと思った。「深めたいむ」は、各学年3から4つ配置されていて、前の教材で学んだことを自分に引き付けて考えていけるようになっている。私も光村図書がよいと思う。

○目黒委員

私は、「なぜ、道徳を学ぶ必要があるのか」ということを、1年間の授業の始まりにしつかりと扱うことが大切だと思っている。授業を進める上でも、その共通理解が重要になってくる。各者、巻頭にオリエンテーションがあり、生徒が学びの見通しや、目的意識を持って授業に向かえるようになっていた。

その中でも光村図書は、最初に「学び方を学ぶ」教材がどの学年にも配置されていて、「どうやって学ぶのか」、「なぜ学ぶのか」、「なぜ一緒に学ぶのか」を段階的に積み重ねながら理解できる点がよいと思った。私も光村図書がよいと思う。

○吉野教育長

皆さんも光村図書のよい点を多く挙げられていたが、道徳については、光村図書でよいか。

【結果】

全員異議なく「光村図書出版」が採択された。

3 議案第8号 令和3年度平塚市立小学校使用教科用図書の採択について

○吉野教育長

令和3年度に平塚市立小学校の児童が使用する教科用図書について採択するものである。詳細は教育指導課長が説明する。

○教育指導課長

令和3年度平塚市立小学校使用教科用図書の採択については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条において、「政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科書を採択するものとする」とある。平塚市立小学校使用教科用図書は、令和元年度に採択され、令和2年度から5年度の4年間、種目ごとに同一の教科書を採択することになっている。よって、資料を確認の上、採択をしていただくようお願いしたい。

【質疑】

なし

【結果】

全員異議なく原案どおり採択された。

4 議案第9号 令和3年度平塚市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について

【提案説明】

○吉野教育長

令和3年度に平塚市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書について採択するものである。詳細は教育指導課長が説明する。

○教育指導課長

令和3年度平塚市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書については、学校教育法附則第9条により、文部科学大臣の検定を経た教科用図書、または文部科学大臣が著作の名義を有する教科用図書以外の図書を使用することができる。

資料にある「特別支援学校用教科書目録」、「令和3年度用一般図書一覧」、本市で採択された教科書及び下学年の使用教科書、拡大教科書からの選定となるので、確認いただき、採択をお願いいたしたい。

【質疑】

なし

【結果】

全員異議なく原案どおり採択された。

5 その他

なし

【閉会宣言】

○吉野教育長

以上で全ての案件の審議が終了したので、教育委員会令和2年7月定例会は閉会する。

(15時30分閉会)